

夏の課題図書

夏の訪れを控え、今年も全国学校図書館協議会が主催する「第 69 回青少年読書感想文全国コンクール」の課題図書が店頭に並ぶ季節を迎えました。今年はこの図書を購入し、読み終えたところです。

■白石 優生(2022)『タガヤセ！日本 『農水省の白石さん』が農業の魅力を教えます』河出書房新社, 188 頁。

この『タガヤセ！日本…』は、人口減少と高齢化という日本社会が近い将来、直面する食料問題に対して農林水産省で働く一人の職員がどう向き合っているか、ユーチューバーとしての知られる著者の日本農業への愛が語られているユニークな著作です。公務員として職務の一環として作成したため原稿料はないとか…。しかも、作者紹介を見て驚きました。何と！私が学んだ 3 つの大学の中で、最初に出た地方国立大学の同じ学部の後輩だったからです。もともと地方国立大学の割には中央官庁に進む人数が多い方でしたが、それは農学部や水産学部があるからだと思っていましたが、そうではない学部出身者がいたことにちよっぴりと嬉しさを感じました。

課題図書とは別に、もう一冊。食べ物に係わる本を紹介しておきましょう。ポテトチップスという「純国産」スナック菓子の誕生から多様性まで、時代の節目にポテトチップスあり、湖池屋とカルビーの戦略の違いなど、学術研究書も顔負けの緻密な取材と豊富な資料で読者を圧倒してくれます。中高生から大学生に、「研究や取材とはかくあるべし」と教えてくれる良書です。ポテトチップスの舞うカラー印刷の二重のブックカバー付きという贅沢な装丁、読後はポテトチップスが食べたくなること請け合いです。ちょうどネット注文した限定商品が湖池屋から届いたところで、美味しくいただきました。



■稲田 豊史(2023)『ポテトチップスと日本人 人生に寄り添う国民食の誕生』朝日新書, 352 頁。